

センター通信

森林技術・支援センター

森林技術・支援センターでは、森林・林業の技術開発に取組むと共に、その成果の普及や民有林支援にも力を入れていきます。

平成29年度に外部機関等の方々のご要望を受け入れて実施したいくつかの取組を紹介します。

他機関への支援

① 占冠村人材育成プログラム（占冠村）

占冠村が平成28年度から進めている林業6次産業化事業の人材育成研修の一環として、当センターの技術開発成果の1つである「北海道型作業システム」(※1) について学習したいとの依頼を受け、自治体職員ほか事業体等12名を対象に講座を担当しました。

受講者の職種や年齢層がバラエティに富んでいたため、講座では素材生産における「作業システムとは何か」という基礎から導入し、路網配置による高効率・低コスト作

業の実例を説明しました。

② 森林・林業技術、労働安全研修会（旭川市）

旭川地方森林整備事業協同組合の主催するCPD・技術者継続教育認定プログラム「平成29年度森林・林業技術並びに林業労働安全研修会」で、事業体の方々50名を対象に「低コスト林業への挑戦」技術開発の視点から「と題し、当センターの技術開発の各種取組内容と、林業事業体への期待等について講義しました。

旭川南部署による各種作業効率化の取組現地検討会において、事業体等120名を対象に「低コスト再造林」天然更新活用型作業方法」(※3) を当該試験地にて説明しました。



講義の様子

③ コンテナ苗現地研修会（木古内町）

渡島総合振興局東部森林室、檜山森林管理署等の主催のコンテナ苗植栽

現地研修会において、林業事業体等40名を対象に「コンテナ苗の効果の検証」(※3) について情報提供を行いました。

④ 木質バイオ集荷・効率化及び低コスト造林現地検討会（南富良野町）

上川南部署による各種作業効率化の取組現地検討会において、事業体等120名を対象に「低コスト再造林」天然更新活用型作業方法」(※3) を当該試験地にて説明しました。

試験地視察受入れ

当センターの「天然林樹種多様化更新」(※4) 試験地に、上川総合振興局南部森林室の方々が見学に訪れました。試験地内を歩きながら、更新補助作業方法や条件の違いによる稚樹の更新・植生回復状況の違いを観察して頂きました。

南部森林室では、天然林資源を育成するため当試験地の成果を、今後の森林づくりの参考にしたとのことでした。



現地案内の様子

◇ ◆ ◆ ◆ ◆
以上、今年度の普及・支援業務の一端を紹介させて頂きました。今後もできる限り皆様からのご要望等にお応えしていきたいと思っております。

本稿の技術開発課題名

- ※1 「北海道型作業システム」を踏まえた路網作設に伴う林業生産コスト低減の検証」
- ※2 「北海道国有林におけるコンテナ苗の効果の検証」
- ※3 「北海道における低コスト再造林を目指した天然更新活用型作業方法とその効果の検証」
- ※4 「天然林での樹種の多様化を図る更新方法の開発」各課題の内容は、当センターHPをご覧ください。